

Pick Up News

例年より1週間以上開花が早かった桜が満開の中、新年度(2018年度)がスタートしました。今年は138名の新入学生、14名の大学院生(博士前期13名・博士後期1名)を新たに迎えることができました。また、新たに建築構造分野の教員として曹森(ソウ・ヒョウ)講師を迎えました。建築学科一同、心から歓迎します。建築学科は本学の中で最多の学生・院生が学んでいる学科・専攻です。一人ひとりが目標を持ち、その目標に向かって努力し、建築力と人間力を身につけ、さらに自身の個性を磨きながら成長していくことを心から願っています。今年は建築学科52年目となります。同じ学年の仲間とのつながり、先輩や後輩とのつながり、教員や卒業生とのつながり、さまざまな「つながり」と「ネットワーク」の中に「自分」がいることを実感し、また誇りに思うことができるような学科づくりを目指していきます。



1年生 建築講演会(2017/04/09)



1年生 私たちの夢や目標(3Fサポセンに掲示中)



1年生 建築ワークショップ(2017/04/10)



1年生 建築ワークショップ後の記念撮影(2018/04/10)



3年生 尚建会(建築学科同窓会)奨励賞:成績優秀者表彰(2018/04/09)

今後の予定:ヴァル・ド・セーヌ建築大学
来校(4/17, 14:00), 建築ワークショップ
発表(1年, 4/20建築入門8:50-)

Pick Up Lab.

堀研究室では、地震に対して「強い」建物の研究をしています。「強い」というのは安全性はもちろんですが、地震時の揺れを小さくすること、地震後もすぐ使用できること、簡易に補修できることなども重要です。近年は、揺れを小さくできる制振構造、免震構造が注目されていますが、特に、揺れのエネルギーを吸収するダンパーの性能が重要となります。5号館や10号館にもオイルダンパーが設置されていますが、このようなダンパーの高機能化と巨大地震対策に取り組んでいます。試験体を作製して、小型振動台(堀研究室)や大型振動台(東北大学)などで、学生も参加して実証実験を行っています。



小型振動台での免震模型実験



3層試験体での実験



院M2 高田 健吾くん
東北学院榴ヶ岡高校出身

Pick Up Student

学校生活を通して心がけていることは「興味があったらやってみる」です。大学初めの3年間までの授業や課題では見たり感じたり物を体感することが無く、空間や建築の想像が出来なくて設計や構造など建築の分野に苦手意識を持つようになっていました。ですが勇気を出して課外活動に参加しました。この活動では今までの講義で習ってきたことや先生から教わる知識が多く建築に対して興味を抱くことができました。そのおかげで他の課外活動への参加も積極的になりました。この活動から今までより建築を学びたいと思うようになりました。建築を嫌いになりそうでも「とりあえずやってみる」ことで建築が好きになりこの大学も好きになれると思います。



3年 内沢 千尋さん
福岡高校(岩手)出身

Pick Up Student

私が建築学科に入ってから大事にしていることは「人との出会い」と「計画性」です。色々な人と関わることによって新たな発想が生まれ、コミュニケーションもとれます。私は大学では課外活動を始め、様々なことに挑戦するようになりました。例えば、民家再生活用ワーキンググループの課外活動です。そこで先輩後輩と話すことで私にはない考え方や授業では習わないことを学ぶことができ、実践することでより理解を深めることができます。また、計画性があれば視野が広がり成功の確率も高く自分に余裕ができます。勉強していて自分の管理も大事だと感じました。工大は自分を成長できる場でもあるのでこれからも頑張っていきたいです。